■アイディア紹介■

「多様な動きの場づくりによる学習の個別化を追求する指導」
═══2年生の鉄棒あそび═══

いわき市立勿来第二小学校
教諭　櫛田　昌平

1. はじめに

ひとりひとりの子どもに対応した指導ができれば理想である。しかし，これはむずかしい。

どうしても，平均的な対応とならざるを得ない，そこには，大なり小なり，両端に不満が残る。

学級というわく組みでの指導では，共通的に言えることである。

体育の学習は，身体活動をとおしておこなわれるという特質をもっているから，ひとりひとりの学習状況がみやすい。だから，時には，ひとりひとりへの対応が可能になるのではないかと考えられる。

2. 多様な，子どもの動きの実態

2年のS君は，4月，横浜市からの転入児である。明かるく活発で元気な子どもであるが，学校の固定施設での遊びにとまどっている。

登り棒，雲梯での体の支え方と移動，高所での身体支配，タイヤとびのタイミング，鉄棒上のバランス，逆さ感覚等がないらしい。元気なS君は都会育ちで，このような生活経験をしてこなかったようである。

S君のような子は，特別であるにしても，これに似た子は学級の中に必ず何人かいるのが，一般的な実態である。

S君のような子から，身体的な問題をもつ子，さか上がりを苦もなくやってのける子まで，子どもの動きの実態は，多様さをもっているのが現状である。

3. 多様な動きに対応する指導の取組み

ひとりひとりの子どもの動きをもとに，どの子も，自分のできる，できそうな運動を設定してやることは，低学年の体育にかぎらず，積極的な学習への取組み，学習の喜びを体得させる指導の展開をはかる重要なきめ手である。

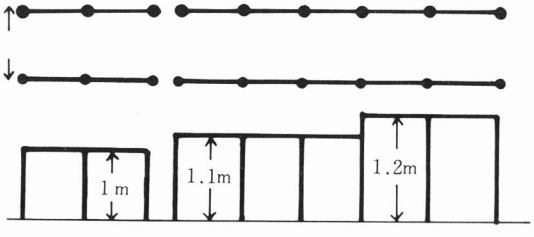
運動内容の設定に当っては

- 子どもの動きの実態から，子どもができそうな運動を，自由に選べるように，運動のしかたと，場を設定する。
- 運動の特性を失なわず，運動の内容に，上下の区別をつけない。
- 学校の設備，施設をもとに，簡単に設定できること。

がポイントで，年間の限られた時間の有効な使い方，動きの幅を広め，質的向上をめざす授業づくりの基本的な手段である。

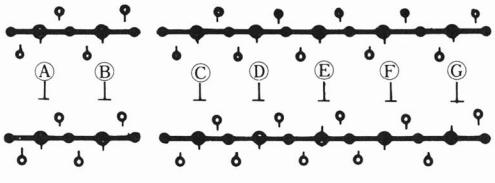
＜施設を生かした運動の場作り＞

(1) 施設の状態



- 片側に7間が並行している固定鉄棒。

(2) 運動の場作りと運動内容の掲示



- Ⓐ～Ⓖは，運動のしかたを図示し，移動できるようにした。
- 1間には，3～4名とし，運動している子の動きを見たり，補助をしたりさせての助け合